

# 市政を問う!

12月定例会では13人の議員が質問しました。

ここでは紙面の関係でその一部を要約して掲載しています。

個人質問

市民生活優先の

新年度予算編成を!

日本共産党 ..... 右山 正美

日本共産党

丸山 正美  
子 藤江  
山 正美  
京 藤江

**来年度予算方針について**  
 国の進める構造改革は、国の財政負担抑制と史上空前の利益を上げていく大企業には優遇政策を進め、自治体には三位一体改革により地方交付税の削減を押しつけ、国民には情け容赦ない負担増と、社会保障予算の削減など、社会格差と貧困をさらに拡大するものとなっています。市民の暮らしは深刻であり、暮らしを守るための市政運営を進めるべきと思いますが、先ず20年度予算はどういう基本姿勢で編成するのかわかりませんが、本来ならば、確実に保障されるべき地方交付税が削減され、財政規模がほぼ同じの平成12年度と比較した場合、16億円の削減となり、扶助費が増える中で、一方に地方交付税が減少され、繰入れ・地方債でのやりくりとなり、事業の一般財源化など、住民サービスを低下させた市政運営となっている。国に予算確保を強く要請すると同時に、不要不急の駅北側区画整理事業や北総中央水事業の見直し・凍結、市有地の有効活用など財源の確保が必要で

はないか。また、20年度の重点施策は何かを伺う。市長、平成20年度の予算編成は、厳しい財政状況を踏まえ本年度予算と同様、予算全般について、節減合理化を推進するという基本姿勢にたつて、市民の確保施策の厳選に努め、確保に見合った通年型予算を編成する。歳出面では、経常経費、義務経費、投資経費について、ゼロベースでの見直しを実施し、健全財政の維持に努めたい。財源確保については、市税収入の確保や受益者負担の適正化に加え、活力ある産業の創出・振興を図り財源の確保につなげていきたい。重点施策は、駅北側土地区画整理事業、八街ハイパス事業並びに公共下水道水整備事業、就学前までの乳幼児医療費無料化、小規模事業者の受注機会の拡大に努める。

**問** 予算編成方針は、事業全般にわたり、費用対効果の分析や執行方法について総点検するとしているが、財政難であれば駅北側区画整理事業・北総中央水は凍結すべきではないか。  
**財政課長** 費用対効果、緊急度に基づいて見直しは行っていきたい。しかしながら、この事業につきましては、市の基本方針・実施計画に基づき毎年予算編成をし、継続している事業であり、何とか完成にむけた財政運営に努めたい。

**市民生活優先の予算措置**  
**問** 19年度では、定率減税の廃止、住民税の大増税で毎年の負担増に「暮らしが成り立たない」など深刻な事態、怨嗟と悲鳴が渦巻いている。住民税減免、国保税の引き下げ、介護保険税の減免、就学援助基準の緩和、安全対策など、市民生活本位の予算措置とすべきであるがどうか。  
**市長** 市税の減免基準の策定を進める。国保税の引き下げは現状では難しい。介護保険の減免は個々の状況に応じて対応する。就学援助は認定要綱に基づき援助をする。安全対策は防犯等カーブミラー、児童生徒のヘルメット支給など行う。

**教育問題**  
**問** いじめ、不登校対策について伺う。子どもたちの間で、痛ましい事件や事故が後を絶ちません。いじめも一時沈静化したかに見えましたが、いじめを苦にして自らの命を絶つ話を聞くこともたまに。八街市の小中学校のいじめはどのくらいか。また、国は教員を増やすとしているが市はもとずと教員を増やし積極的な対応をすべきだ。今後、いじめ、不登校の問題をどのように解決するのかわかりませんか。  
**教育長** 18年度のいじめは小学校47件、中学校103件。19年度は小学校47件、中学校61件。いじめを許さない学校づくりを進める。不登校対策は、補助教員の配置、スクールカウンセラー配置、教育支援センターナチュラール・児童家庭課との連携を以て減少させていく。いじめ対策は加害者、被害者の心のケアを全職員で行っていく。

**就学援助費について**  
**問** 就学援助費はどのような基準手続で支給されるのか。生活保護基準の1.5倍に助成枠を拡大すべきであるがどうか。  
**教育長** 国の法律に基づき認定をしている。基準の緩和は考えていない。